

野川第一調節池 平成 21(2009)年度昆虫モニタリング報告

野川自然の会 モニタリング部会 昆虫班

平成 22(2010)年度総会資料 2010,5,23

実施内容

1. 今年度はトンボ類に焦点をしばり、ルートセンサス法を用いた。

第一調節低地面を A(越流堤付近)・B(中央草地)・C(田んぼ・どじょう池・湿地付近)の3地点に分け、基本的に北側側溝沿いからどじょう池水路を経て、湿地・田んぼまでの左右幅 2.5m(計5m)を対象とした。目視、および捕獲法によって種、またできるだけ雌雄も記録した。

2. その他の昆虫類についても、目視・採集できたものについて記録した。

ここではトンボ類について述べる。

実施日(計7回実施)

平成 21(2009)年5月 13 日:第6回目

平成 21(2009)年6月 28 日:第7回目

平成 21(2009)年7月 26 日:第8回目

平成 21(2009)年8月 13 日:第9回目

平成 21(2009)年9月 28 日:第10回目

平成 21(2009)年10月 25 日:雨天中止

平成 21(2009)年11月 1 日:第11回目:上田茂生・夕希子氏の記録

平成 21(2009)年11月 28 日:第12回目

結果

記録については表 1 を参照。

注目種 3 種(シオカラトンボ・ミヤマアカネ・アキアカネ)をピックアップシグナチャート化した(図 1)。

期間を通しての確認種数は 18 種(不明種含む)。種数が最も多かったのが 8 月で、12 種。個体数が最も多かったのは 9 月で、このときはアキアカネだけで全体の 52%を占めた。全期間を通して見たとき、この時のみ多数確認された。

5 月の調査時ではシオカラトンボのみであった。初夏から秋まで比較的良好に記録されたが 11 月に入ると個体数が減った。

ミヤマアカネは 6 月から姿が見られ、11 月上旬まで大きな増減なくコンスタントに記録された。

6 月には、工事用の土取り穴の水たまりでアジアイトトンボと思われるイトトンボの羽化個体を多数確認できた。

8 月の調査ではコオニヤンマ・オニヤンマがみられ、田んぼ周辺の生息種以外の確認が種数の多さに繋がっているようである。

※補)ルートセンサス法を用いているため、調査内容は限定される。それゆえ調節池上空を群飛するウスバキトンボなど、現地では目立つが調査内容になかなか反映しない種もあった。

トンボ類からみた自然再生事業地、『野川自然の里』

注目種としてあげた3種のうち、シオカラトンボは最普通種であり、とんぼ田んぼ・湿地・野川本川と生息場所がさまざまである。また5月上旬には早々と姿を見せるトンボで、昆虫の季節の始まりを感じさせてくれる。

ミヤマアカネの幼虫は、緩やかな河川を主な生息場所とするアカネ類の中では変わり者である。野川本川で幼虫が確認されている。成虫はあまり河川から遠く離れずに生活しているため、夏中野川周辺で見られる。調査期間中は側溝脇の草むらでハネを休めている個体を確認できるため、野川本川と周辺草むらの組み合わせが、このトンボの生息に好適な環境をもたらしているようである。

アキアカネについては、秋の一時期に多数確認しているが、それ以外ではほとんど見られない。おそらく山から降りてくる「渡り」途中の個体なのだと思う。

工事事土取り穴においてイトトンボが多数発生した記録もある。浅く、乾燥が続けば干上がってしまうような不安定な水たまりだが、イトトンボたちにとって一時期繁殖に適した環境だったのだと思われる。

その他の種類として、調査に反映されていないが田んぼ畦に生えるオギの葉の組織内に産卵するアオイトトンボの確認があった(9/23)。アオイトトンボの卵は葉内で越冬し、翌春孵化する。つまり、産卵基質である植物が残されていることが幼虫発生にとって重要なのである。湿地に移植した植物がうまく定着してくれれば、アオイトトンボをもっと呼び込むことができるかもしれない。

ひとつ気になる現象として、とんぼ田んぼにおけるトンボ類幼虫の少なさがある。

9月23日に稲刈り後の田んぼにおいて、ギンヤンマ雌雄による産卵を確認した。少なくとも3ペアおり、それぞれが稲の切り株について産卵していたのだが、その後ほとんど幼虫が確認できていない。

以上のように『野川自然の里』におけるトンボ相は、さまざまなタイプの水辺が創出されていくことによって、今後も多様になっていくものと思われる。

トンボ類センサスについては、2010年度も継続してモニターしていきたい。

文責:高橋利行

2010年度昆虫モニタリング予定

- 5～11月 毎月第4日曜日 8:30～10:00 トンボ類ルートセンサス実施
- 7月・9月日時未定 「鳴く虫」(バッタ・コオロギ・キリギリス)調べ
- 10月日時未定 ショウリョウリョウバッタモドキ生息調査